

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科公民 科目政治・経済特講

教科：公民 科目：政治・経済特講 単位数：5 単位
対象学年組：第 3 学年 H 組
使用教科書：（東京書籍『政治・経済』）
教科 公民 の目標：

【知識及び技能】社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

合意形成や社会参画に向け、国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。

政治・経済に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的によりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

科目 政治・経済特講 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・経済に関わる諸事象について、総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	政治・経済に関わる事象の意味や意義、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会における諸国の課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	政治・経済に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
前期	A 現代日本の政治 1 【知識及び技能】 民主政治の基本原則、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分自身が、自立した主体になる態度を育む。	・指導事項 政治の役割と民主政治への道のりから、ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説や、直接民主制と間接民主制、イギリスとアメリカの政治機構を比較し、共通点と相違点について考察させる。法が自分の生活にどのように関係しているか、基本的人権に関する原典資料を読解・比較し基本的人権の確立や内容の変化に着目し、衆議院と参議院の違いや、衆議院の優越、内閣と国会の関係、衆議院の解散や総辞職などのしくみ、「55年体制」や衆議院議員および参議院議員の選挙制度の長所と課題について理解させる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 政治の役割や、社会契約説における政府と国民との関係性、法の意義や、「法の支配」が民主主義に不可欠であることを理解している。 【思考・判断・表現】 民主政治に関して基本的な考え方を踏まえ、法が自分の生活にどのように関係しているか考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 民主主義に関わる事象や課題について主体的に追究し、社会を築く一員として自己を形成しようとする態度を身に付けている。授業のための予習や、復習・演習を継続し、授業中の対話で他者との考えを比較したり、納得した上で自分の言葉でまとめることができる。	○	○	○	24
	B 現代日本の経済 1 【知識及び技能】 資本主義経済と社会主義経済の考え方や、経済活動と市場のしくみ、経済主体と経済循環、国民経済の大きさについて、現実社会の諸事象を通して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 具体的な事例を通して主権者としての政治に対する関心を高める。	・指導事項 資本主義経済と社会主義経済の成立、家計および企業の経済活動や、各経済主体の相互関係、企業の活動や、株式会社の特徴について、市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性、経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動のしくみについて理解させる。現代の企業に求められているものは何かについて考察させる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 希少性やトレードオフなど経済活動の基本原則、資本主義経済と社会主義経済の成立と発展、現代企業の特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 経済体制にはどのようなものがあるか、市場の限界にはどうすればよいか考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 資本主義経済に関わる事象や課題について主体的に追究し、社会を築く一員として自己を形成しようとする態度を身に付けている。授業のための予習や、復習・演習を継続し、授業中の対話で他者との考えを比較したり、納得した上で自分の言葉でまとめている。	○	○	○	24
	第1回定期考査			○	○	○	1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
前期	C 国際政治 【知識及び技能】 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。また、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 国際連合をはじめ、固有の領土である竹島や北方領土問題などについて平和的な手段による解決について粘り強く取り組む態度を養う。	・指導事項 冷戦における諸外国の動向と地域紛争、日本の領土問題について理解させる。米ソ（ロ）の二国間条約に着目し、軍備管理から軍縮への流れをまとめさせる。日本の難民受け入れはどうあるべきか日本の領土や歴史認識をめぐる外交の課題にはどのようなものがあるか、これからの日本の開発援助のあり方について話し合わせる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 主権国家と国際社会の形成過程や国際法、集団安全保障のしくみが必要とされた背景や、平和と安全を維持するための国際連合の取り組み、冷戦と核兵器の国際動向について理解している。 【思考・判断・表現】 国際連合が抱える課題について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業のための予習や、復習・演習を継続し、授業中の対話で他者との考えを比較したり、納得した上で自分の言葉でまとめている。	○	○	○	34
	D 現代日本の経済 2 【知識及び技能】 財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 具体的な事例を通して持続可能な財政に関わる事象や金融経済の課題について主体的に追究し、主権者として生きる自己を形成しようとする態度を養う。	・指導事項 金融や財政の役割、日本の財政の課題を抱える課題について理解させる。インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるか、金融商品を購入する際にリスクとリターンのどちらを重視すべきか、戦後復興から高度経済成長の終焉までの日本経済の変遷と産業構造の変化について考察させる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 金融と財政の役割について理解している。また、2000年代以降に試みられた経済政策が日本社会に与えた影響について理解している。 【思考・判断・表現】 金融・財政、日本経済が抱える課題を解決するにはどうすればよいか考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 財政や金融に関わる事象や課題について主体的に追究し、社会を築く一員として自己を形成しようとする態度を身に付けている。授業のための予習や、復習・演習を継続し、授業中の対話で他者との考えを比較したり、納得した上で自分の言葉でまとめている。	○	○	○	20
	第2回定期考査			○	○	○	1
後期	E 現代日本の政治 2 【知識及び技能】 選挙のしくみや国会・内閣・裁判所の役割、地方自治について現実社会の諸事象を通して主権者としての選択・判断するための日本政治について理解させる。日本政治に関わる情報を読み取る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治の本質を基に政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察・構想し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分自身が、自主的に社会に関わる自立した主体になる態度を育む。	・指導事項 選挙の意義と課題や政治参加と世論形成、国会と立法、内閣と行政の民主化、地方自治と住民の福祉について理解させる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 政治参加と公正な世論の形成、国会・内閣・裁判所・地方自治について、現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、個人が議論に参加し、意見や利害関係の対立状況を調整して、合意を形成することを通して築かれるものだ理解している。 【思考・判断・表現】 自立した社会の形成者の主体であることを視野に入れながら、合意形成をもって主題の解決を目指し、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な体験や思索の機会を通して判断と行動の選択基準について自らの考えを深め、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。	○	○	○	25
	F 現代日本の経済 3 【知識及び技能】 現代の日本経済の題解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、効果的に活用させる。 【思考力、判断力、表現力等】 各統計資料を根拠にし表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 各統計資料を粘り強く取り組む態度を養う。	・指導事項 消費者契約・公害・農業・中小企業、労働問題や社会保障について理解させる。契約自由の原則をふまえ、成人年齢の引き下げに伴う背景を理解させる。少子高齢化における持続可能な社会を築くこと、自分事として主体的に学習に取り組ませる。 ・教材 教科書、資料集、問題集 パワーポイントのスライド	【知識・技能】 消費者契約・公害・農業・中小企業、労働問題、社会保障について現状や諸課題について理解する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】 消費者・公害・農業・中小企業、労働問題、社会保障自立した社会の形成者の主体であることを視野に入れながら、合意形成をもって主題の解決を目指し、について論拠をもって、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 自立した消費者として、社会の形成者の主体であることを視野に入れながら、合意形成をもって主題の解決を目指す態度を養う。	○	○	○	20
	第3回定期考査			○	○	○	1

[illegible]